

小5 国語 「オクリンクプラスでつなぐ国語の学び ～蓄積から広がる対話力～」

ミライジード
AWARD
2025

Benesse
主催 ベネッセコーポレーション



オクリンク
プラス

- ・「つむぐんBOX」による単元を越えた学びの蓄積
- ・自分の学びを自由に表現できるピラミッドチャート
- ・児童の主体性を伸ばし、国語好き96%を達成

活用背景・ねらい

国語科では、「話す・聞く・書く・読む」の本質は「分かりやすく伝える」という点で同じである。しかし、**身につけた学びが次の学習や生活に生かされにくいという課題があった**。そこで、各単元で得た学びを蓄積し、必要な場面で自ら呼び出して使える環境を整えることで、「分かりやすく伝える」対話力の育成をねらった。

成果・効果

4月からの実践により、児童の姿に2つの変容が見られた。第一に学習意欲の向上。事後アンケートで**96%が「国語が好き」と回答し**、対話への抵抗感が低下した。第二に対話・思考力の伸長。**88%が向上を実感し**、蓄積した学びを使い、根拠を明確に話す姿が見られた。その結果、男女の壁を越えた助け合いや学び合いが育まれ、**心理的安全性が高い学級づくり**にもつながった。

授業・取り組みの流れ

① 学びを蓄積する環境づくり

本実践では、児童の**学びを単元ごとに蓄積し**、次につなげていくために「つむぐんBOX」を導入した。「つむぐんBOX」は、ピラミッドチャートの頂点に「自分が大切にしたいこと」を置き、その下に**学びを自由に書き貯める場**がある。児童は、**自分でカードや場を調整**しながら、授業で学んだ内容を整理・記録していった。「つむぐんBOX」を**継続的に活用**することで、単元を越えて学びを生かす土台をつくった。

② 学びの蓄積

4月「話す・聞く」単元から、児童とカードづくりを行った。例を示し、**1枚のカードに1つの学び**を記すように指導した。単元終了後に振り返り時間を設け、日常的に「つむぐんBOX」へ**学びを貯める習慣**をつくった。

③ 「つむぐんBOX」と組み合わせた「話す・聞く」の実践

2学期「よりよい学校生活のために」の単元では、「つむぐんBOX」で**蓄積した学びを活用**し、自分の考えを伝える授業を行った。授業の初めに「つむぐんBOX」から各自が本時で意識したい「めあて（過去の学び）」を選択。**蓄積した学びを活用して対話**できるようにした。また、児童は対話しながら新たな学びを追加した。以下に、単元終了後のピラミッドチャートの例を示す。

(1) の児童は、頂点に「相手の意見のよい所を先に言う」という学びを置いた。チャート内には、本単元の学びや他単元の学びを混ぜながら、**絵や図を入れ整理**した。相手のことを意識した内容の学びが多く見られた。

(2) の児童は、頂点に文章のつながりや自分が話す文章構成の学びを置いた。また、カードの中でも分かりやすく伝える**土台を意識して色分け**した。

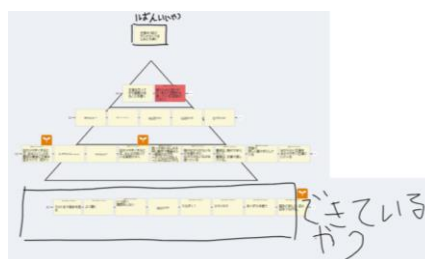
(3) の児童は、より強く大事だと考える視点を見付け、頂点より更に上にもカードを配置した。そこには、**説明文で学んだ**、「主張は最初と最後に書く」ことが記してあった。欄外には、自分が既にできているものを**つけ加えた**。このように、オクリンクプラスの操作のしやすさにより、**児童の発想が自由に働き**、学習意欲の向上につながった。他教科でも同様の取り組みを実施しており、年度末に各自どのような学びのピラミッドが完成するか楽しみである。



(1) 児童のピラミッドチャート



(2) 児童のピラミッドチャート



(3) 児童のピラミッドチャート